

報道関係各位

尼崎市
阪神電気鉄道株式会社

第1回脱炭素先行地域に尼崎市と阪神電気鉄道株式会社 の共同提案事業が選定されました

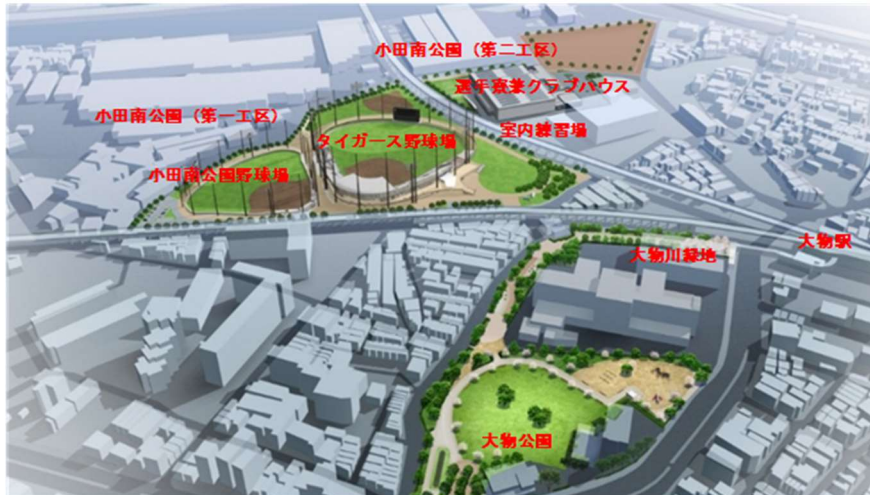
尼崎市（市長：稲村和美）と阪神電気鉄道株式会社（本社：大阪市福島区、社長：秦雅夫）は、環境省が実施した第1回脱炭素先行地域の公募に共同提案で応募し、本日付けでこの提案が選定されたことが環境省から公表されました。

1 提案のタイトル

阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画
～地域課題解決型！官民連携事業～

2 提案事業の内容（詳細は別紙のとおり）

尼崎市南部に位置する阪神電車沿線エリアのうち、阪神タイガースファーム施設（2軍本拠地）等を整備予定の小田南公園（公園未共用部分を含む）のほか、大物公園、大物川緑地、市内の阪神電車の各駅について、徹底した省エネルギー化と再エネ設備の導入、電力の地産地消等の取組みにより、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2の排出を2030年度までに実質ゼロとするものです。



◀ 先行地域の整備後完成イメージ
（北から見た図）

3 選定理由

脱炭素先行地域評価委員会において、以下の点が評価されました。

- ・プロ野球球団と連携したスポーツによるまちづくり・観光振興・地域活性化と脱炭素の両立を目指した提案であり、実現可能性やアナウンス効果があること。
- ・あわせて動線となる鉄道駅における脱炭素化やEVバスの積極的な導入を行うこと。

以 上

〈 資料配布先 〉

青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、尼崎市政記者クラブ、各社阪神支局

この件に関する報道関係からのお問合せは、

尼崎市経済環境局経済部経済活性化課	担当：藤田	TEL 06-6489-6670
環境部環境創造課	担当：宗和	TEL 06-6489-6301
阪神電気鉄道株式会社 経営企画室（広報担当）	担当：永井、長田	
	（平日 8:45～17:45）	TEL 06-6457-2130

までお願いします。

【参考】

○脱炭素先行地域とは

脱炭素先行地域とは、2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域。

環境省は、脱炭素先行地域を少なくとも100か所を選定するとしている。

尼崎市：阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画～地域課題解決型！官民連携事業～

脱炭素先行地域の対象：小田南公園内タイガース野球場等、大物公園、大物川緑地、阪神電車尼崎駅等
 主なエネルギー需要家：公園緑地3か所、小田南公園内の野球場2施設、選手寮兼クラブハウス、室内練習場、鉄道6駅
 共同提案者：阪神電気鉄道株式会社

取組の全体像

人口減少が進む市南部大物地域の小田南公園に阪神タイガースファーム施設が移転することにあわせ、同公園内の野球場、練習場等のスポーツ施設に**太陽光・蓄電池**を導入するとともに、**自営線**による同施設間や近隣の大物公園、大物川緑地間の電力融通を行った上、不足する電力をごみ発電の余剰電力を活用し**ゼロカーボンベースボールパーク**を実現する。あわせて、近隣の阪神電車の駅（6駅）を太陽光等により脱炭素化するとともに、EVバスの導入、**ゼロカーボンナイター**の開催等を行い相乗効果を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- 各施設において省エネを徹底し、選手寮兼クラブハウスについては**ZEBReady**を目指す。施設の形状等が特殊なタイガース野球場と室内練習場も**ZEBReady(全国初)**を目指す
- タイガース野球場及び室内練習場には**太陽光発電(計710kW)**と**蓄電池**を導入し、最大限**自家消費**するとともに、小田南公園内各施設等の自営線区域内に融通
- 自営線区域で不足する電力についてはクリーンセンターの**廃棄物発電の余剰電力**を活用
- 近隣各鉄道駅舎6駅については、**太陽光発電設備(計621kW)**を導入し、自家消費を行いつつ、各駅間で融通し、不足分は再エネ電力を調達



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ゼロカーボンベースボールパーク**として公園内や試合の中で脱炭素の取組を周知し、**ゼロカーボンナイター**（RE100、バイオマス素材の活用、プラスチックリサイクルの強化）の開催等に取り組む
- 鉄道網が発達している東西の移動に比べて交通手段が限定される南北の主要交通手段である**路線バスへのEV(26台)導入**

3. 取組により期待される主な効果

- 阪神タイガースファームの試合**だけでなく、試合以外のイベント等に多くの集客が見込まれており、これらの来場者に対して、阪神グループと協力して**駅の脱炭素化**、EVバス・シェアサイクルの導入など来場時の交通の脱炭素化を進めることや、先行地域内で行われる脱炭素の取組（ゼロカーボンナイターの開催、廃棄物発生抑制及びリサイクルの推進など）をPRすること等により、小田南公園を含むエリア全体での**交流人口の増加による経済効果**と脱炭素普及啓発を同時達成

4. 主な取組のスケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
公園緑地	設計	再整備工事		・ゼロカーボンナイターの開催 ・脱炭素関係のソフト事業の推進	
駅	大物駅の工事(太陽光)	杭瀬駅の工事(太陽光)	尼崎センタープール前駅の工事(太陽光)	武庫川駅の工事(太陽光) 尼崎センタープール前、尼崎駅の工事(LED)	大物、杭瀬、出屋敷駅の工事(LED)
その他			EVバスの導入及び運行		シェアサイクルの導入